

前略 現代のみなさん、お元気で
すか。私は今、大正15年の鳥取の町
を調査しています。まだ道路が舗装さ
れていないせいか、昔ながらの木造の
建物が多いからなのか、現代よりは随
分涼しく過ごしやすいように思います。
この頃の鳥取の町は、江戸時代の城下
町の静けさと、自動車やチェーン店とい
った目新しいものが調和していて、とて
も美しく活気にあふれているようです。

町をゆく人びとも、昔ながらの和服
に洋物の帽子をあわせたり、長靴を履
いていたりして、少しユーモラスな感じ
がします。時には、現代でも通用しそ
うなショートカットに洋服姿の女性や、



鳥取土産館 (『因幡之葉』より)

白いスーツの上下にボマードで髪を固めた
モダン・ボーイ、モダン・ガールと呼ばれ
る人たちを見かけることもあります。

そこまで極端でなくても、町のひとた
ちは少しずつモダンなお洒落や食べ物を
楽しんでいるようです。「久松ラムネ」な
んていうオリジナル・ブランドの清涼飲料

おうちだに画報

やまびこ館に、
タイムマシンに乗って
時間旅行中のやまびこ博士から、
ちょっと早いカモメールが
届きました。

水も発売されていて、なかなか美味です。

開通して間もない鉄道で、鳥取駅には
たくさんの乗客や貨物が日々運び込まれて
きます。蒸気機関車はなかなかの迫力で
すよ。駅がにぎわっているせいか、駅前
通りも随分にぎやかになってきています。
なかなか字では伝えきれないのですが、
やまびこ館では今度、この時代の商家な

どを写した写真の展示が開催されるとか。
実際に目にするのと全く同じというわけに
はいかないでしょうが、少しでもこの活気
に触れることができるれば、とても楽し
いと思います。それでは、また。

草々

現代のみなさま

時間旅行中のやまびこ博士より

やまびこ館へ
Goじゃ!



鳥取市歴史博物館
佐々木 孝文

特別企画展

「もだにずむ@とっとり」 Part 1

パネル展「写真でみるモダン都市 80
年前の鳥取のまち」

開催期間 7月1日(金)～7月24日(日)
*大正15年に刊行された『因幡之葉』
掲載写真のうち、若桜・智頭・鹿野街道
と川端通りの商家を中心に、約100点
を展示します。

■問い合わせ先 やまびこ館 上町88

TEL (0857) 23-2140



ディープ・インパクト計画に注目!

「ディープ・インパクト」と聞けば、思い出すのは
競馬が映画ですね。でも、今回ご紹介する「ディープ・
インパクト」は、アメリカの探査機の名前です。こ
の探査機はテンペル彗星(すいせい)に球をぶつけ、
どのように変化するかを見る予定です。

彗星といえば長い尾を思い出しますが、本体は大き
さ10㎞前後で、おもに氷でできている天体です。こ
の氷が太陽の熱で溶け、本体を何十萬㎞もガスがと
りまいたり、時に1億㎞以上の長い尾を伸ばしたり
するのです。そのようなガスなどに隠されて、彗星
の本体は、長い間、ナゾにつつまれていました。

この計画では、2005年7月4日(月)午後3時ごろ、
370㎞の球を秒速10㎞ものスピードで彗星本体にぶ
つける予定です。その結果、どうなるのかまったくわ
かりません。「彗星の一部が壊れて、明るく輝く」とか、
「彗星がこなごなになる」とか、天文学者の中にもい
ろいろな予想があります。ぶつける時、日本はまだ
昼間で観測できませんし、目で見てもわかるほどす
ごいことになる可能性は低いのですが要注目ですね。

佐治天文台長 香西洋樹の「空の向こうに見えるもの」

Vol.2 太陽のエネルギー

太陽の大きさを考えたことがありますか? 太陽系の中心で、私た
ちの地球も太陽の子どもですね。
この太陽を中心にして、9個の惑星と無数の小天体が
ほとんど同じ平面を回っているのが太陽系の姿です。
ところが、太陽を回る道筋、軌道は真ん丸ではありません。
そして、地球が太陽に最も近づくのは毎年1月
の初め、最も遠ざかるのは7月の初めのころです。

1月といえば北半球では1年中で最も寒い季節で、
7月は最も暑い季節です。太陽に最も近い1月が最も
寒く、最も遠い7月が暑いとは、不思議に感じますね。
太陽からの距離が変化するとはいっても、地球が太陽
から受けるエネルギーはほとんど変わりません。

この太陽から受けるエネルギーのことを、太陽定数
と言って地球の大気圏外で1平方㎢当たり毎秒1.96
ワットに相当します。太陽が近くて大きくても、また遠く
て小さくても、また太陽の表面に大きな黒点が現れて
も、地球が受け取るエネルギーは変わらないというこ
とになるのです。太陽って偉大ですね。



母なる星「太陽」

StarWorld
見上げてごらん